

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
(1) 確かな学力の育成を図り、学ぶ喜びを体験させる。 (2) 自分や他人、ものを大切に、思いやりをもつことのできる様々な場を体験させる。 (3) 夢や目標をもたせ、達成に向け根気強く取り組ませ、達成の喜びを体験させる。	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【A】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【B】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【B】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【C】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【C】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【A】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】 ○国語A、算数A、算数Bともに、県平均と比べると正答率が低い。国語Bは県平均を上回っている。 ○国語では、「読む能力」「書く能力」については、県平均とほぼ同レベルだが、「言語についての知識・理解・技能」が特に低い。 ○国語A「慣用句の意味(心を打たれる)」:本校71%(県90%) ○国語B「目的に応じ、複数の文章を選んで読む」:本校57.1%(県49.4%) ○算数の領域別では、「図形」「数量関係」は県平均を上回っているが、「数と計算」「量と測定」は下回っている。 ○算数A「折れ線グラフから変化の特徴を読み取る」:本校92.9%(県63.1%) 「3桁の整数の大きさを比べ、十の位に入る数字をかく」:本校42.9%(県74.7%) ○算数B「示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる」:本校7.1%(全国46.7%) 県 ○国語・数学では3学年(3、4、5年)とも県平均を下回っている。 ○3年生は、国語では、「漢字を読む」の問題で正答率が目標値を上まっていた。領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と観点「話す聞く能力」の正答率が低い。漢字を書く:本校48.6%(県75.4%) ○算数では、「計算の復習」の問題で目標値を上まっていた。領域「図形」、観点「数量や図形についての知識・理解」の領域が弱い。「はこの形」:本校27.8%(県51.3%) ○4年生は、国語では、「漢字を読む」の問題で正答率が目標値を上まっていた。領域「読むこと」、観点「読む能力」の正答率が低い。「説明文の内容を読み取る」:本校41.7%(県65.2%) ○算数では、「計算の復習」「わり算」の問題が目標値に達していた。領域「数量関係」、観点「算数への関心・意欲・態度」の正答率が低い。「時刻と時間」:本校55.6%(県75.3%) ○5年生は、国語は、「漢字を読む」「物語の内容を読み取る」の問題で正答率が目標値を上まっていた。領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と観点「言語についての知識・理解・技能」の正答率が低い。「漢字を書く」:本校51.5%(県70.5%) ○算数では、「計算のきまり・変わり方調べ」が目標値に達していた。領域「図形」と観点「算数への関心・意欲・態度」の正答率が低い。「いろいろな形」:本校	【学習状況調査の結果】 ○将来の夢を全員が持っている。 ○朝食、早起きではよい結果が出ているが、早寝の習慣がついていない児童もいる。 ○放課後にテレビ等を視聴したり、テレビゲームをしたりする時間が、県平均より少ない。テレビやゲームをしない時間を有効に使っている。 ○家庭での学習時間は、1時間～2時間未満の児童が多く、2時間以上の児童はいない。 ○読書時間は、30分～1時間未満の児童が多かったが、1時間以上の児童も数人いる。 ○自分が住んでいる地域の行事に参加する児童が多い。 県 ○家庭での学習時間は、1時間～2時間と答えた児童が多い。 ○学校を楽しんでいる児童が多く、全員が将来の夢や目標を持っている。 ○テレビを見たりゲームをしたりする時間を家の人と決めて、守っている児童が多い。 ○あいさつについてはほとんどの児童ができています。
---	--

成果	課題
○よい生活習慣(朝食など)や学習規律の指導などを通して、落ち着いた学習環境を作り出している。 ○キャリア教育を継続して行っていることで、将来の夢や目標を持つことができていると考えられる。 ○「どどんチャレンジ」「放課後学習」などを継続することで、計算の基礎的な力をつけることができた。 ○協同学習に取り組んだことで話し合い活動が増え、友だちと協力して最後まで学習に取り組もうとする力がつき、学力調査の無回答率が0%につながった。 ○メディアコントロールの取り組みを家庭と連携して行うことができた。その結果、テレビ等の視聴時間についてのルールを決めている家庭が増えた。	○基礎基本の正答率が低く、定着していない。そのため、活用問題も解くことができていない。 ○国語、算数ともに問題の内容を正確に読み取ること、必要な情報を選び出す力が弱い。また、国語や算数が好きと答える児童が少ない。 ○よい生活習慣が身につけていない児童や正答率が特に低い児童への個別指導を行う必要がある。 ○文章をスラスラ読んだり、言葉に詰まらず読むことが弱い。 ○自分の考えや説明を文章に書き表すことが苦手な児童が多い。 ○話し合い活動を通して、交流した意見をまとめたり、深めたりする力が弱い。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
漢字の書きの定着	11月(秋チャレ)	3年生:正答率60%以上 4年生:正答率65%以上 5年生:正答率70%以上 6年生:正答率80%以上	・文字をていねいに書くことの徹底 ・作文場面で漢字を使うようにする指導の徹底 ・新出漢字の定着のためのミニテストの回数を増やす ・家庭学習とミニテストのつながりを作る	秋チェックの漢字の書く分野の正答率は4年、5年とも全国正答率を上回ることができた。ノートの文字も丁寧に書く取組を継続している。ミニテストや単元テストの正答率も上向ってきている。	C			
演算決定の向上	11月(秋チャレ)	どの学年も演算決定のために、関係図や数直線を書けるようにする。	・音読の回数を増やす ・問題に対して、どんな問題か、どのような方法で解けるか、何を言えばいいかを話し合う時間を多く持つ	授業や家庭学習で国語や社会等様々な教科の音読に取り組んでいる。算数では問題文から図を書いて考えることに取り組んでいる。図にすることでイメージでき演算決定し解決できるようになってきている。	C			
苦手分野の克服	11月(秋チャレ)	時計・図形・立体の領域で正答率60%以上	・家庭学習の内容を既習の問題から幅広く出す ・どどんチャレンジで問題データベースを活用する ・授業のまとめのあと、適用問題で確かめる時間を確保する	全学年で問題データベースやけんぼプリント、秋チェック事前プリント等を繰り返し活用した。3～5年の秋チェックの自校採点結果では、5年国語では全国正答率をすべての項目で超えるなど、どの学年も春の結果から上向いた。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○学習意欲の向上と理解の定着を図るために、学び合いを積極的に取り入れる。(協同学習の全学級での定着) ○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善に取り組む。	○家庭学習の内容を工夫し一定の時間集中して取り組む習慣づけの協力を家庭に呼びかける。 ○久米中ブロックPTAで取り組んでいるメディアコントロールの取り組みを継続し、テレビやゲーム等の利用のルールについて保護者と子どもで話し合っており取り組むことができるようにする。 ○学習ボランティアへの積極的な参加を呼び掛ける。